

HOPE Bourgogne



Hospices de Beaune



ワインで有名なブルゴーニュ地方は、10世紀から15世紀にかけて、現在のベルギー、オランダ、ルクセンブルグを含む強大なブルゴーニュ公国の中心地であり、さらに、ドイツ、スイス、イタリアなど近隣諸国への街道国でも

あった。

ブルゴーニュ南部に位置するボーヌは、フランス有数のワイン産地であるが、毎年11月に行われているワインオークションは、世界でも最も有名なもののひとつである。このオークションは、Hospices de Beauneという市立病院の運営を援助しようと、1859年から周辺のブドウ園主がワインを持ち寄って始めたのがきっかけとされている。

またの名を“Hotel-Dieu”（神の館）ともよばれるこの病院は、英仏百年戦争の飢饉と貧困に苦しむ人々の窮状を

救うために、1443年、ブルゴーニュ公（フィリップ善良公）の宰相であったNicolas Rolinと妻が私財を投じて建設したものだ。これまで、数多くの病人が入院し、修道女らによって手厚い医療が施され、15世紀から現在に至るまで、地域の人々、特に「貧しい人達のための病院」として、機能し続けている。

病院は、50ヘクタールのブドウ園を所有し、ワイン醸造による収益によって運営されているが、貴族や中流階級の人々からも多くの寄付が寄せられたため、時を経るにしたがって病室も充実し、内部は第一級の美術品によって飾られるなど、「貧者の宮殿」ともいわれている。特に、Roger Van der Weydenの作とされる「最後の審判」の絵は、15世紀の細密画の傑作である。

ゴシック様式の外観と鮮やかな色彩の屋根が特徴的な病院の建物は、今日では、フランドル・ブルゴーニュ地方における中世建築の至宝とまで呼ばれている。

1971年に、病院は新しい近代的設備の建物に移されたが、ここは、15世紀のままの状態で保存され、病室や薬局、台所、チャペルなどからは、中世の医療がどのようになされていたか、さらに人々の生活の様子なども垣間みることができる。まさに、現代の病院の原型ともいえるものである。

東機質グループの新しい拠点

Château de Chailly

シャトー ドゥ シャイイ

ブルゴーニュ地方は、中世におけるブルゴーニュ公国の時代をしのばせるシャトーが数多く残されていることでも知られている。このブルゴーニュ地方に、東機質グループは、心と体の健康事業の一貫として、1990年6月、16世紀ルネッサンス様式のシャトーを改装したホテルと国際基準を満たした18ホールのゴルフ場を開発、オープンした。シャトーの建物は、建設当時の状態に修復され、歴史と文化の香りを味わうことができる。

45室ある客室にはファックス回線や

衛星放送受信システムも備わっており、近代的な快適さも味わうことができる。また、敷地内にはテニスコートやプールもある。

ブルゴーニュ地方は、パリから新幹線（TGV）で時間30分、豊かな文化遺産、恵まれた気候、おいしいワインと食事、素朴で暖かい人々など、訪れる楽しみも豊富だ。学会やセミナー、観光、ゴルフなど、ヨーロッパに旅行された折には、「ブルゴーニュにいらしゃいませんか？」



問い合わせ先：
（株）佐多商会 フルゴーニュ事業部
TEL:03-3586-1421（東機質ビル内）
担当:岩 沢
これから毎号、フルゴーニュからの話題をお届けします。